



株主のみなさまへ

第 **83** 期

2022年4月1日 → 2022年9月30日

中間報告書

株式会社 **ジャムコ**

証券コード：7408





代表取締役社長CEO 阿部 俊之

★ 第2四半期の業績について

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、新型コロナウイルス感染症(以下、感染症)拡大の影響から正常化に向けて持ち直しの動きがみられたものの、ウクライナ情勢の長期化懸念、原油価格の高騰、原材料価格の上昇などにより依然として不透明な状況が続きました。このようななかで、米国の金融引き締めによる急激な為替変動により、ドル円為替相場は対米ドル円レート122円台から144円台後半で推移しました。

航空輸送業界では、国内線需要の回復に加え、各国の入国制限の緩和や撤廃などにより国際線需要についても回復してきていることから、エアラインでは旅客需要の回復を見据えた機体発注や運休機材の稼働再開などの動きが見られました。又、航空機メーカーにおいても航空旅客需要の回復に伴い、一部機種では受注が増加しました。

士魂 商才

経営理念

技術のジャムコは、士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めています。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

このように、航空旅客需要の回復がみられるなかで、当社グループでは、グループ外に出向していた社員を帰任させると共に、新卒採用活動を開始しました。又、製造工程においては、業務効率改善の活動を継続すると共に、今後の更なる需要回復に備え、ジャムコフィリピンの生産能力・機能拡張計画や国内外のサプライチェーンの強靱化に着手しました。更に、ESG/SDGsへの対応を多角的に推進するため、サステナビリティ推進体制を整えました。

航空機内装品等製造関連においては、航空旅客需要の回復に伴い、保有機体を活用するためのメンテナンス部品や客室改修の需要増加がみられ、これらに対応すべく、生産体制の強化に取り組みました。又、お客様が航空機に搭乗する際に抱く不安を少しでも解消できるように、清潔で衛生的な機内環境作りのための製品開発を行い、ギャレー、ラバトリー、シート等への展開を見据えた研究・提案を行いました。

航空機シート等製造関連においては、収益性の良いビジネスクラス・シート「Venture」の他機種展開などに加え、次期ビジネスクラス・シート「Quest for Elegance」の開発にも取り組みました。

航空機器等製造関連においては、生産性改善の取り組みを行うと共に、熱可塑CFRP(炭素繊維強化

プラスチック)を活用した航空機用軽量機体部材の開発やCFRP部材の航空機分野以外への展開を進めました。

航空機整備等関連においては、飛行安全の確保と品質向上の取り組みを継続すると共に、エアライン、官公庁向け整備の受注に努め、安定した収益を上げるために事業基盤の強化に取り組みました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高 17,042百万円(前年同四半期比1,435百万円減)、営業利益 281百万円(前年同四半期は、営業損失 511百万円)、経常利益 354百万円(前年同四半期は、経常損失 687百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益 655百万円(前年同四半期は、親会社株主に帰属する四半期純損失 47百万円)となりました。

なお、当第2四半期連結会計期間末に第3四半期連結会計期間以降の完成工事に対する工事損失引当金を 3,833百万円計上しております。この工事損失引当金による期間損益への影響は、当第2四半期連結会計期間において売上原価 135百万円の増加(第1四半期連結会計期間末の工事損失引当金は 3,698百万円)、又、当第2四半期連結累計期間においては売上原価 4百万円の増加(2022年3月期末の工事損失引当金は 3,828百万円)となりました。

グループ全体の販売費及び一般管理費、営業外損益、特別損益の状況は次のとおりです。

販売費及び一般管理費は、人件費、販売手数料の増加などにより 3,793百万円(前年同四半期比 142百万円増)となりました。

営業外損益は、米国金利の上昇などにより支払利息が増加しましたが、為替相場が前連結会計年度末よりも円安で推移し為替差益が増加したことなどにより 73百万円の益(前年同四半期は、175百万円の損)となりました。

特別損益は、一時帰休による固定費等の操業費用を新型コロナウイルス感染症関連損失として 75百万円を計上しましたが、米国における雇用維持を目的とした助成金等の助成金収入として 117百万円を計上したことなどにより、37百万円の益(前年同四半期は、300百万円の益)となりました。

★ 財政状態について

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は 100,450百万円となり、前連結会計年度末に比べ 6,799百万円増加しました。内、流動資産については、受取手形、売掛金及び契約資産の減少(前期末比 4,309百万円減)等がありましたが、仕掛品の増加(前期末比 5,978百万円増)、原材料及び貯蔵品の増加(前期末比 2,951百万円増)等により流動資産合計で前連結会計年度末に比べ5,887百万円増加しました。又、固定資産については、有形固定資産の増加(前期末比 264百万円増)、無形固定資産の増加(前期末比 181百万円増)等により固定資産合計で前連結会計年度末に比べ 911百万円増加しました。負債合計は 88,421百万円となり、前連結会計年度末に比べ 5,865百万円増加しました。主な要因は、短期借入金の増加(前期末比 5,817百万円増)等による

2022年度
第2四半期
連結業績
ハイライト

売上高
17,042百万円
前年同期比
7.8%減

営業利益
281百万円

経常利益
354百万円

親会社株主に
帰属する
四半期純利益
655百万円

ものです。

純資産合計は 12,028百万円となり、前連結会計年度末に比べ 933百万円増加しました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益などによる利益剰余金の増加等によるものです。この結果、自己資本比率は11.6%となりました。

✈ 通期の見通し

売上高は、航空機内装品等製造関連・航空機シート等製造関連において、ボーイング787型機向けの出荷再開や一部客室改修プログラムが当初計画より遅れたことなどから減少が見込まれます。

一方、利益面は、運航機数の増加に伴いエアライン向けのスペアパーツ販売が増加していること、業務効率改善による原価低減策の効果、及び為替レートが想定より円安に推移していることなどから通期連結業績予想値を上方修正しました。

以上により、売上高49,800百万円、営業利益2,780百万円、経常利益1,860百万円、親会社株主に帰属する当期純利益2,160百万円を見込んでいます。

なお、2022年9月30日付「連結子会社の固定資産の譲渡に伴う特別利益の計上に関するお知らせ」のとおり、第3四半期連結会計期間に固定資産の譲渡益として約446百万円を特別利益に織り込んでおります。

又、通期連結業績予想の前提となる第3四半期連結会計期間以降の為替レートは115円/米ドルから130円/米ドルに変更しております。

今期の配当につきましては、誠に遺憾ながら当初計画通り、中間配当も含め無配とさせていただきたく存じます。可能な限り早期に復配できるように努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



培ってきた高い技術力をベースに、いつで

接着剤無しでCFRPとチタン合金との高強度接合を実現

東北大学大学院工学研究科の白須圭一准教授、水谷正義准教授、同流体科学研究所の大林茂教授と当社の共同研究グループは、金属3Dプリンタを用いてCFRP(炭素繊維強化プラスチック)へ効率的にせん断荷重を伝達できるような円柱状の突起を有する表面構造を造形し、これにCFRPを熱プレスして直接接合することで、現行の接着剤接合同等以上のせん断接着強度を発現させることに成功しました。これにより、組み合わせるCFRPの特性等の諸条件を考慮した金属表面構造の最適化を図ることで、将来的に直接接合の実用化への展開が期待されます。

本研究は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の先導研究プログラム「航空分野における現行接合以上の信頼性を達成するマルチマテリアル3D接合・最適成形技術の開発」の成果であり、2022年5月10日に学術専門誌「International Journal of Adhesion and Adhesives」に掲載されました。



東北大学
TOHOKU UNIVERSITY



Jamco
ALWAYS FLY TOGETHER

大成建設(株)の防振遮音構造フレーム「T-Silent® CFRP Frame」にジャムコ製CFRPが採用

当社のADP製法によるCFRP(炭素繊維強化プラスチック)が、大成建設株式会社の防振遮音構造フレーム「T-Silent® CFRP Frame」に採用され、優れた施工性が確認されました。

ADP(ADvanced Pultrusion)は、当社が開発したCFRPの連続成形製法で、理論上長さの制限がない部材が製造できること、真直性や直角度等についても極めて高い精度を実現できることが特徴です。この製法によるCFRPは、エアバスA220型機及びA350型機を除くエアバス機の垂直尾翼一次構造部材や、エアバスA380型機の二階床構造部材として採用されています。一般的に防振遮音構造のフレームとして使用される鉄骨部材の重量と比較して約1/11と非常に軽量で、揚重機等を使用する必要がありません。鉄骨部材を使用した場合と比較すると、施工時間を約1/3の5時間に短縮することが可能です。



当社製CFRPを用いた防振遮音構造フレーム
写真提供：大成建設株式会社

も時代に合わせた挑戦を続けています。

“Quest” iF DESIGN AWARD 2022を受賞

当社のプレミアム・クラス・シート「Quest」が、世界規模で開催される最も著名な国際デザイン賞の一つである「iF DESIGN AWARD 2022」を受賞しました。iF DESIGN AWARDは、ドイツのハノーバーを本拠地とするiF International Forum Designが主催しており、「優れたデザインの証」として68年にわたり国際的に認知されているデザイン賞です。2022年は132名のデザイン専門家が57カ国/地域から集まった11,000件の応募デザインを厳正に審査し、プロフェッショナル・コンセプト部門での受賞となりました。



“Personalized Sound Zone System” が“Crystal Cabin Awards”にてファイナリストに選出

当社とNTTソノリティ株式会社は、ドイツ、ハンブルグメッセで開催されたCrystal Cabin Awards 2022において、Passenger Comfort (乗客の快適性) 部門にプレミアム・クラス・シート「Venture」に搭載したPersonalized Sound Zone System (パーソナライズドサウンドゾーン技術)^{*}を共同提案し、ファイナリストの3社に選出されました。Crystal Cabin Awardsは、航空機内装品におけるイノベーションに対する唯一の賞となり、航空機内装品の新しいキャビンコンセプト、革新的なサステナブル技術、次世代の乗客の快適性等計8つのカテゴリーに対して贈られる最も栄誉ある賞です。

パーソナライズドサウンドゾーン技術により、乗客はヘッドホンやイヤホンを装着しなくても、周囲への音漏れを気にせず、音楽・映画を楽しめるようになります。



※ パーソナライズドサウンドゾーン技術とは…

特殊なハードウェア技術・音響信号処理技術が組み込まれた専用スピーカーにより、イヤホンやヘッドホンといった装着型デバイスを使用せず、耳がオープンな状態で、特定のエリアに限定して音を再生する技術です。

ジャムコグループは、サステナビリティ活動を経営理念の実現に向けた重要課題として捉え、次のような方針を掲げて取り組んでいます。

サステナビリティについての基本方針

ジャムコグループは、自然との共生をはかり、企業活動を通じて人々の幸せと豊かな社会づくりを追求し、世界の持続的な発展に貢献していきます。

- グローバル社会が直面する地球環境問題をはじめとした様々な課題に挑戦します。
- 地球温暖化の問題を喫緊の課題と認識し、あらゆる環境負荷低減施策に取り組めます。
- 事業環境の変化を新たな成長の機会と捉え、より安全で安心な製品・サービスの提供を通じて持続可能な社会づくりと企業価値の向上を目指します。

ジャムコグループでは、中長期計画「Jamco Vision 2030」の戦略の柱のひとつである、SX推進プログラムにおいて、サステナビリティ (ESG、SDGs) に関する取組みをスタートしました。

ステークホルダーの皆さまとの信頼関係を大切に、豊かで持続可能な社会づくりに貢献するべく、今年度においては、次のような新たな取組みを進めました。

サステナビリティ基本方針を策定・開示

TCFD^{*2}提言に沿った情報開示に着手

サステナビリティに関する内部統制体制強化を目的に
本社機構に「サステナビリティ推進室」を新設

ジャムコグループのGHG排出量算定に着手

環境保全活動に関する推進組織及び
関連規程の合理化・見直しを実施

サステナビリティに関する
重要課題(マテリアリティ)の策定に着手

CDP^{*1}気候変動質問書2022の回答を提出

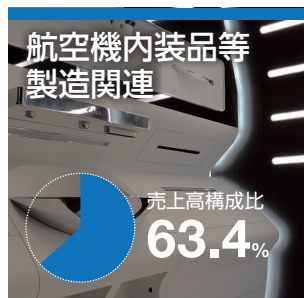
再生可能エネルギー導入に関する検討を開始

※1 CDPは2000年にロンドンで設立した非営利団体(旧称:カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)です。

気候変動、水セキュリティ、森林減少リスク・コモディティの分野における、企業や自治体のグローバルな情報開示基盤を提供し、収集した情報は投資家や企業、各国政府に活用されています。

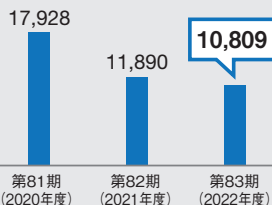
※2 「気候変動関連財務情報開示タスクフォース(Task Force on Climate-related Financial Disclosures)」の略称で、G20財務大臣・中央銀行総裁会議の要請を受け、2015年12月に金融安定理事会(FSB)により、気候関連の情報開示及び気候変動への金融機関の対応を検討するために設立されました。



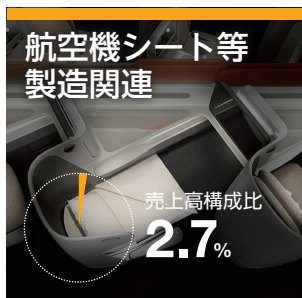
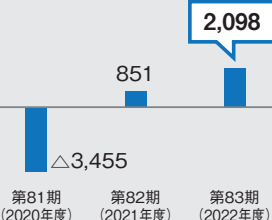


製品・サービス
 ギャレー
 ラバトリー
 ギャレーインサート

第2四半期売上高 (単位: 百万円)

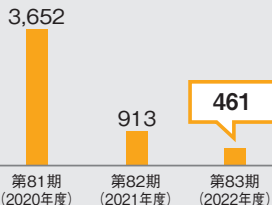


第2四半期経常利益 (単位: 百万円)

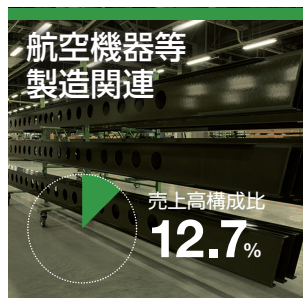
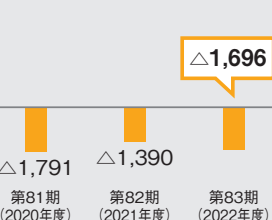


製品・サービス
 プレミアム・シート
 シートコンソール

第2四半期売上高 (単位: 百万円)

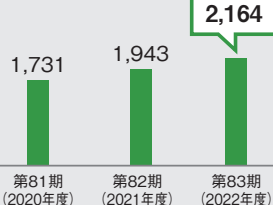


第2四半期経常利益 (単位: 百万円)

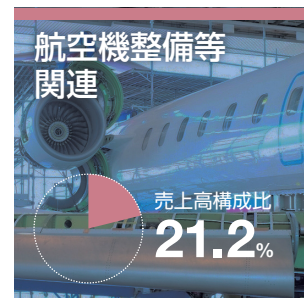
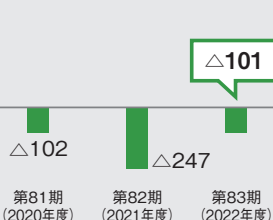


製品・サービス
 空調用機器等
 航空機用エンジン部品
 航空機用炭素繊維構造部材

第2四半期売上高 (単位: 百万円)

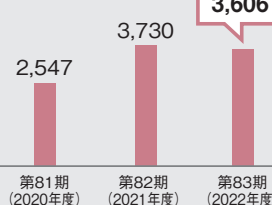


第2四半期経常利益 (単位: 百万円)

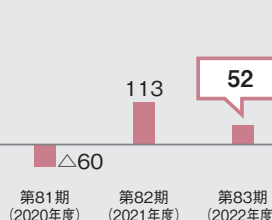


製品・サービス
 機体整備・改造
 装備品整備等

第2四半期売上高 (単位: 百万円)



第2四半期経常利益 (単位: 百万円)



詳細な決算情報は、右記のQRコードから当社ホームページにアクセスいただき、「IR資料」からご覧いただけます。

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

▶ <https://www.jamco.co.jp/ja/ir/materials.html>



会社概要

会社概要 (2022年9月末現在)

商号	株式会社ジャムコ
本店	東京都三鷹市大沢六丁目11番25号
本社	東京都立川市高松町一丁目100番地
設立年月日	1949年3月15日
創立年月日	1955年9月1日
主な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●航空機内装品等製造関連 ギャレー、ラバトリー、ギャレー搭載用各種装備品等の製造 ●航空機シート等製造関連 航空機シート及びシートコンソール等の製造 ●航空機器等製造関連 熱交換器、航空機用炭素繊維構造部材、民間航空機エンジン部品等の製造 ●航空機整備等関連 航空機の機体、装備品等の整備・改造
資本金	5,359,893千円
従業員数	連結：2,563名 個別：1,124名

役員／執行役員 (2022年9月末現在)

代表取締役社長	阿部 俊之	常務執行役員	田所 務
代表取締役副社長執行役員	米倉 隆	常務執行役員	後藤健太郎
取締役専務執行役員	木村 敏和	常務執行役員	内城 浩
社外取締役	瀬川 夏樹	常務執行役員	神山 行雄
社外取締役	原田 茂	執行役員	脇 昭博
社外取締役*	鈴木 伸一	執行役員	小澤 恵治
社外取締役*	渡辺 樹一	執行役員	木本 幸浩
社外取締役*	鶴 由貴	執行役員	板倉 潮
常勤監査役	蕪木 昇	執行役員	小出 三郎
常勤監査役	粕谷 寿久	執行役員	鎌田 文彦
社外監査役*	高橋 均	執行役員	野々目慎一
社外監査役*	渡邊浩一郎		

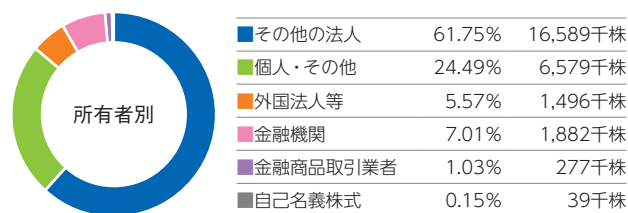
*東京証券取引所の規定する独立役員です。

株式の状況 (2022年9月末現在)

株式数・株主数・上場取引所

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	26,863,974株
株主数	6,455名
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場(証券コード7408)

株式分布状況



大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
伊藤忠商事株式会社	8,956	33.38
ANAホールディングス株式会社	5,373	20.03
昭和飛行機工業株式会社	2,003	7.46
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,511	5.63
ジャムコ従業員持株会	431	1.60
INTERACTIVE BROKERS LLC	411	1.53
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口)	190	0.71
JP MORGAN CHASE BANK 385781	147	0.54
UBS AG LONDON ASIA EQUITIES	136	0.51
BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNYM GCM CLIENT ACCTS M ILM FE	109	0.40

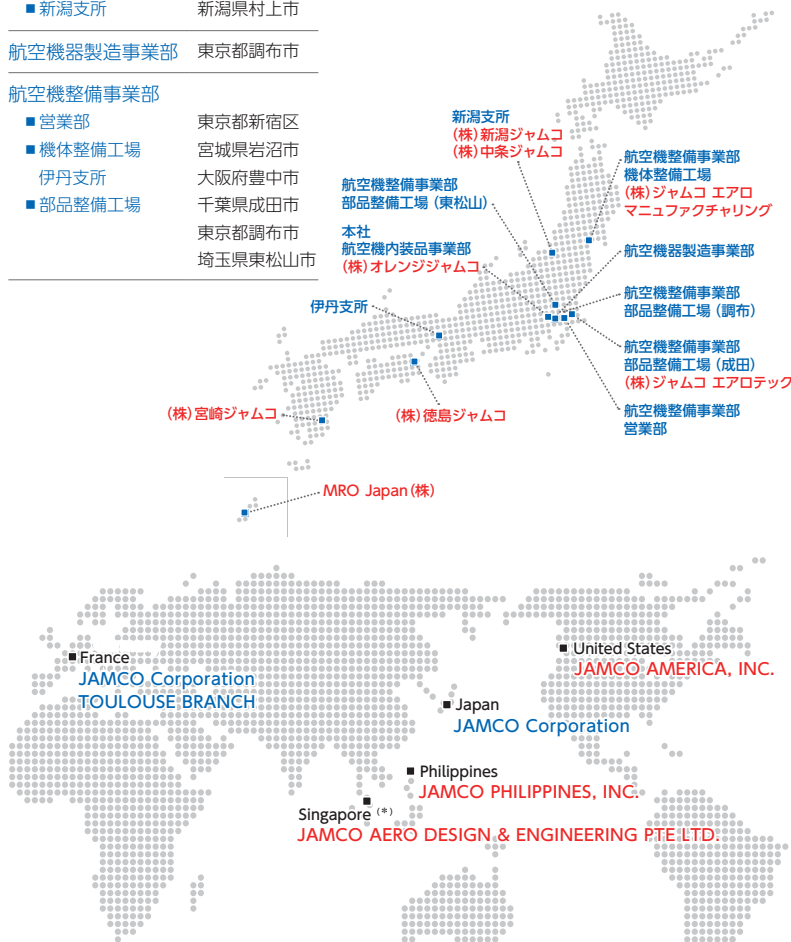
(注) 持株比率は、自己株式(39,007株)を控除して計算しております。

事業拠点 (2022年9月末現在)

✈️ 事業所／子会社／関連会社一覧

本社	東京都立川市
航空機内装品事業部	東京都立川市
■ 新潟支所	新潟県村上市
航空機器製造事業部	東京都調布市
航空機整備事業部	
■ 営業部	東京都新宿区
■ 機体整備工場	宮城県岩沼市
伊丹支所	大阪府豊中市
■ 部品整備工場	千葉県成田市
	東京都調布市
	埼玉県東松山市

JAMCO 事業所・工場・支所
JAMCO 子会社・関連会社



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.pronexus.co.jp/koukoku/7408/7408.html (但し、電子公告によることができない事故、その他の止むを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に公告いたします。) なお、計算書類及び連結計算書類に係る情報は、インターネット上の当社コーポレートサイト (https://www.jamco.co.jp/) においてご覧いただけます。

ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできません。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店にお問い合わせください。

(*) JAMCO SINGAPORE PTE LTD. は、2021年1月をもって解散し、清算手続きを進めております。

空飛ぶクルマの実用化に向けて当社のエンジニアを派遣



画像提供：SkyDrive

当社は先端技術とイノベーションによる事業領域の拡大、価値創造企業グループに向けた取組みを進めています。次世代モビリティへの取組みとして、当社の航空機客室内装品開発のスペシャリストが株式会社SkyDrive(以下、SkyDrive)に出向する形で、協業を開始しました。SkyDriveは2018年7月に設立され、「空飛ぶクルマ」の実用化を目指し、「100年に一度のモビリティ改革を牽引する」ミッションを掲げ、日常的な移動に空を利用できる未来のモビリティ社会の実現を目指しています。

SkyDrive社のご担当者と当社エンジニアから「空飛ぶクルマ」に対する想いを伺いました。



当社から出向している エンジニア

株式会社 SkyDrive
エアモビリティ事業部
機体開発グループ 構造・客室チーム

鈴木 智大



SkyDriveでは、エアモビリティ事業部の構造・客室チームに配属され、機体構造や内装の設計・開発を主な業務としております。

現在開発中の空飛ぶクルマは、国土交通省の型式証明を取得して、航空機としての認可を受けることを目標としております。型式証明取得に向けた課題解決において、ジャムコのノウハウを活かすことができている。又、航空機である以上、軽量化という課題は常について回ります。今後、航空機内装品の知見や軽量化技術でも、ジャムコで培った知見でSkyDriveに貢献できると感じております。



株式会社 SkyDrive

エアモビリティ事業部
機体開発グループ 構造・客室チーム
リーダー

富田 昌利氏



現在開発中の空飛ぶクルマは国土交通省から、航空機としての認可を受け、2025年に国内でサービスインをすることを目指しております。貴社ではこれまで数多くの航空機の内装品あるいは構造部材の一部を供給してきた確かな実績があり、これまでの経験で培ったノウハウを、出向者を介してご提供いただけることは、ゼロから空飛ぶクルマを作っていく我々SkyDriveにとって大変貴重なサポートになります。

今後、貴社の強みである、内装品の設計・製造や軽量化技術といった技術面でのサポートを期待しつつ、型式証明の取得に向け、貴社のノウハウを共有していただくことに期待し、加えて、部品供給に関しても期待したいと考えております。

又、サービスイン後は、安全に運行するために、そのメンテナンスが欠かせません。ここでも貴社で培ってきた航空機の整備に関する協業もできることに期待しております。

株式会社 ジャムコ

〒190-0011 東京都立川市高松町一丁目100番地
TEL:042-503-9900 (代表)

※本資料に記載されております当社の計画や予測等は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に判断したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。

※本資料で使用している文章、写真等の無断での複製・転載を禁止します。



この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC® 認証紙を使用しています。